

いずれも医師の指示に従って  
治療を受けてください。



《登園・登所意見書(医師の意見)が必要でない主な感染症》

病名	症状など	かかりやすい年齢及び季節
手足口病	潜伏期間(3~6日) 症状:不機嫌→食欲不振・発熱があるときもある。 手足に米粒ほどの水泡をもった発しんができる。主に手・足・口に発しん。	生後6か月~4、5歳の乳幼児期に多い。(特に集団にいる場合) 夏期に多い。原因となる病原ウイルスが複数あるため再発することがある。
伝染性膿痂しん (とびひ)	潜伏期間(2~10日) 症状:水疱がつぶれ、かさぶたになり円状形にひろがる。 全身いたるところにできる。	どの年齢にもみられる。 夏の終わりに多くみられる。
伝染性軟属腫 (水いぼ)	潜伏期間(2~7週間) 症状:米粒大までの柔らかい桃色又は真珠色のいぼ。 真中がへそのようにくぼんでいることもある。	幼児期に多い。
溶連菌感染症	潜伏期間(一般に2~5日) 症状:急性扁桃炎・咽頭炎・中耳炎。特徴的な発しんなど。	腎炎・リウマチ熱・血管性紫斑病などの慢性疾患の一部は溶連菌感染症に続いて起こるので担当医の指示を守ることが大事。
伝染性紅斑 (りんご病)	潜伏期間(4~14日) 症状:頬に境界のはっきりした紅い発しんが特徴。	幼児期に多い。
ヘルパンギーナ	潜伏期間(3~6日) 症状:突然の発熱・のどの痛み(水疱・潰瘍)	4歳以下の乳幼児に多い夏かせ。
マイコプラズマ 肺炎	潜伏期間(2~3週間) 症状:発熱・のどの痛み・全身倦怠感、咳は長く頑固であることが多い。	4~9歳位に多い。 夏から初冬に多く、4年周期の流行がみられる。
突発性発しん	潜伏期間(9~10日) 症状:2~4日の高熱で、解熱後全身発しん。	生後6か月~1歳。 1歳をすぎて発症することはまれ。 症状は現れなくてもほぼすべての子どもが免疫を獲得します。
RSウイルス 感染症	潜伏期間(4~6日) 症状:咳、鼻水、発熱が主症状	全年齢層(重症化しやすいのは乳児や、体力の落ちている人)

★ その他に、ウイルス性胃腸炎(ノロ・ロタ・アデノウイルス等)・帯状疱疹(ヘルペス)  
・アタマジラミなどがあります。

★ 保育施設は、乳児が集団で長時間生活を共にする場です。感染症の集団での発症や流行をできるだけ防ぐことはもちろん、ひとりひとりの子どもが快適に生活できることが大切です。子どもが楽しく元気に保育所(園)生活を送れるように集団生活適応できる状態に回復してから登所(園)するよう、ご配慮ください。